

IT 好き放題とは、Ikuo Takeuchi 好き放題のこと？

短いコラムでメッセージを発信して、ほかの人たちの記憶に残すことはとても困難だ。たった1つの言葉を広めることもなかなか実現しない。筆者は40年以上前から「秘妙」という言葉を「目指せ広辞苑！」とばかり、よく「秘妙という言葉の意味は実に秘妙なので説明しにくい」などと書くのだが、一向に広辞苑に載らない。

ここで広めたいのは「大の大人の情報リテラシー」である。実はこれについて学会会議のとある報告書のコラムに書こうとしたら、個人的な意見という理由で没になった。

さて、イノベーションのない企業や国はそのうち衰える。以前イチローが出ていたCMのキーワードは「変わらなくちゃ！」で、それが「変わらなくちゃも変わらなくちゃ！」になった。このようなメタな物言いはテレビのCMでは異例だ。それはともかく、物質→エネルギー→情報と続いてきた科学技術の流れの中で、ITはまさに「変わらなくちゃも変わらなくちゃ！」のマウスイヤーに突入している。

大衆の情報リテラシーはもちろん重要であるが、実は「大の大人の情報リテラシー」も重要である。ITイノベーションを発明できるのはフレッシュな若者たちだ。しかし、それだけでは不十分で「大の大人の情報リテラシー」の支えが必要である。

「大の大人の情報リテラシー」とは、日本の社会を動かしている人々、つまり、「大の大人」に必要な、日本のITをどうするのかに対する土地勘や評価能力である。具体的には、(1) 口先だけでなく、ITの重要性を認識すること、(2) 現在のITが未熟であると認識すること、(3) ITの変化の速さを知り、畏怖すること、(4) ITイノベーションを、大の大人の責任として先導しなくては企業も国も衰えてい

くと認識することである。

筆者はこれまで何回も「日本のソフトウェア(産業)はどうしてこうもだめなのか」をお題とするパネルに駆り出された。カスタムソフトの比率が高いのがその原因だか結果だかという論があるが、どうもソフト産業ではなく、カスタムソフトを発注するお客さんのほうに情報リテラシーが足りない。だから、ソフト産業は手抜きができる(?)。これはつまるところ、産業界に「大の大人の情報リテラシー」が

基
般

[シニアコラム]

IT 好き放題



[No.17]

大の大人の情報リテラシー

欠如しているということなのである。

ITで大成功する会社が日本で出にくいのは、正しい投資が行われないからという説がある。お金を持っている投資家に「大の大人の情報リテラシー」がないのだ。また、日本ではIT技術者の地位や社会評価が低い。これは、大の大人によって形成される「社会の情報リテラシー」が低レベルということである。こうして、人材が育たない、集まらないという悪循環が起こる。

さらに口を滑べらせると、最大の「大の大人」であるところの行政の情報リテラシーが足りない。情報に関する行政がバラバラなのはその一例だ。どこの役所も情報が重要と口を揃えるのに、本来の「大の大人の情報リテラシー」が発揮されていない。いまや、戦略的な企業はCIOをおいて、IT時代での生き残りに必死だ。省庁や自治体に本物のCIOがいなければ、IT投資の無駄遣いが続く。無駄遣いの後遺症として、IT開拓に新しい予算投入が行われにくくなるという症状が出始めている。

解決案までは書けない。このコラムの目的は「大の大人の情報リテラシー」という言葉を広めることである。「秘妙」だけでもいいけど…。

(2012年3月14日受付)

竹内郁雄 Ikuo TAKEUCHI

(早稲田大学)

[正会員] nue@nue.org

1971年東京大学大学院修了、以降、NTT研究所、電気通信大学、東京大学を経て現職。東京大学名誉教授。エジプト日本科学技術大学の立ち上げに参加中。未踏IT人材・発掘育成事業統括プロジェクトマネージャ。